

## 令和5年度 第1回江別市立病院経営評価委員会 議事録

### ○日時

令和5年5月24日(水)18:00~19:20

### ○場所

江別市立病院 2階 講義室

### ○委員

出席:西澤寛俊 委員長、西村正治 委員、笹浪哲雄 委員、樋口春美 委員、山本長史 委員、  
水野克也 委員、山田修司 委員、高田明 委員

欠席:石井吉春 副委員長

### ○その他出席者

江別市:後藤好人 市長、石田賢治 総務部財務室長、中村哲也 健康福祉部健康推進室長

市立病院:長谷部直幸 病院事業管理者、富山光広 院長、黒木純子 看護部長、

岩淵淑仁 経営推進監、白石陽一郎 事務長、加茂順一 経営改善担当参事、

但馬功一 管理課長、稲田征己 医事課長、佐藤卓也 健診管理課長

### ○傍聴者(別室で動画中継視聴)

9名

### ○次第

1. 委嘱状交付

2. 開会

3. 市長挨拶

4. 議事

#### (1)報告事項

①病院事業経営状況(4~3月分)について

②令和4年度病院事業会計決算の概要について

③令和4年度収支改善の要因分析について

④「ロードマップ」の進捗状況について

⑤医育大学との共同研究について

#### (2)協議事項

①点検・評価の進め方(案)について

#### (3)その他

5. 閉会

【議事録】

西澤委員長	<p>—— 議事(1)報告事項 ①② ——</p> <p>報告事項の①病院事業経営状況(4～3 月分)について、及び②令和 4 年度病院事業会計決算の概要について、説明願います。</p>
管理課長	<p>(資料1 P1「診療収益の状況」説明)</p> <p>(資料1 P2「病院事業経営状況調」説明)</p> <p>(資料1 P3「入院実績と計画」説明)</p> <p>(資料1 P4「外来実績と計画」説明)</p> <p>(資料1 P5「損益管理簿」説明)</p> <p>(資料1 P6「令和 4 年度病院事業会計決算概要」説明)</p> <p>(資料1 P7「コロナ感染症に係る補助金、交付金の内訳」説明)</p> <p>(資料1 P8「令和4年度予定貸借対照表(要旨)」説明)</p> <p>(資料1 P9「キャッシュ・フローの経年比較」説明)</p> <p>(資料1 P10「病院事業会計予算決算等の推移」説明)</p> <p>(資料1 P11「診療科別在籍医師数」説明)</p>
西澤委員長	<p>この件について、質疑ありますか。</p>
委員	<p>(質疑なし)</p>
	<p>—— 議事(1)報告事項 ③ ——</p>
西澤委員長	<p>次に、報告事項の③令和4年度収支改善の要因分析について、説明願います。</p>
参事	<p>(資料1 P12～14「令和4年度収支改善の要因分析」説明)</p> <p>(資料1 P15「令和4年度新型コロナウイルス感染症の影響分析」説明)</p> <p>(資料1 P16「令和4年度病棟配置の状況」説明)</p> <p>(資料1 P17～18「経営分析表(令和4年度決算)」説明)</p>
西澤委員長	<p>この件について、質疑ありますか。</p>
委員	<p>(質疑なし)</p>
	<p>—— 議事(1)報告事項 ④ ——</p>
西澤委員長	<p>次に、報告事項の④「ロードマップ」の進捗状況について、説明願います。</p>
参事	<p>(資料1 P19～25「ロードマップ進捗管理表」説明)</p> <p>(資料1 P26「市民への情報発信等の取組状況」説明)</p> <p>(資料1 P27「健診利用者の推移(令和4年度実績)」説明)</p>

西澤委員長 委員	この件について、質疑ありますか。  (質疑なし)
西澤委員長 参事	—— 議事(1)報告事項 ⑤ —— 次に、報告事項の⑤医育大学との共同研究について、説明願います。  (資料1 P28「医育大学との共同研究について」説明)
西澤委員長 水野委員	この件について、質疑ありますか。  質問というより、お願いです。最後の医育大学との共同研究についてですが、これは連携を深めるという意味でとても良いことと思います。一方で、結構な金額を毎年支出することになりますので、定期的に本委員会にどのような成果があったか報告いただければと思います。もちろん、すぐに成果が出るものではないと思いますので、過程についてご報告いただけたらと思います。支出に見合う成果というのは難しいかもしれませんが、どのような取り組みをしているかということ、定期的にご報告いただきたいなと思います。
西澤委員長	ありがとうございます。たしかに支出するのであれば、それに対するメリットがなければと思いますので、よろしく願います。 報告事項を通して、他に質疑ありますか。
樋口委員	P20(③5事業の方向性)の救急医療体制のところですが、市立病院で夜間に急病の方を受けるとするのは、市民にとって安心安全につながりますし、(内科系の輪番制は)懸案だったのでよかったと思います。 開始から約2ヶ月経つので、3病院の連携ですとか、市立病院でどういう運営状況(スタッフの教育や体制整備について)だったか、教えていただきたいです。
事務長	江別市内の救急は、外科系救急というのは市内のいくつかの病院で当番を決めて運営されてきましたが、内科系については市立病院がすべて担っていた時代もありましたけれども、輪番という形で各病院当番を決めて運営するということは今までなくて、課題となっていました。さまざまな経過の中で、市内で救急医療を完結させることが難しくなっていました。昨年当院に事業管理者が着任して以降、市内で急性期の入院に対応されている民間医療機関にお声掛けさせていただき、何度も協議を重ねてきました。3病院の病院長による協議が進む中で一定程度形が定まって参りま

	<p>して、昨年度になります。令和5年3月に江別医師会の中で内科系二次救急の輪番制の提案をさせていただき、協議・決定したもので、4月から輪番制を開始したという経過がございます。コロナ禍ということもありましたけれども、江別市内の医療機関だけで救急医療を完結させることができない状況が続いてきて、悪い時は約45%の救急を札幌市にお願いするという状況もございました。消防本部の速報値として聞いているところによりますと、輪番制を開始した4月の実績としては、外科系も含めて7割程度、救急の市内応需率があるとのことですので、良いスタートを切れたかなと思っております。</p>
西澤委員長	<p>国は、医療の地域連携を特に重要視しておりますので、引き続き体制を維持していただきたいと思っております。また、私が思うには、新型コロナの流行は悪いことばかりではなく、コロナ禍で地域の医療機関は連携を強くしなければならぬというきっかけにもなったのではないかと考えています。</p>
西村委員	<p>今の件について、市立病院のかつてを振り返りますと、救急体制あるいは当直体制といったものが内科医の過剰な負担になって、病院が崩壊したという歴史があります。それを踏まえ、現状どういう当直体制あるいは救急体制をとっているか、もう少し具体的に教えてください。</p>
院長	<p>私からお答えいたします。今まで、各病院がそれぞれかかりつけ医としての救急体制をとっていました。これは要するに各病院の内科医師が、ずっと待機しているという状況でした。輪番制により、内科の救急体制を各病院で当番制にすることで、たとえば当院が当番ではない日は、当院にかかりつけの患者さんが救急車でほかの病院に運ばれることがあります。その場合は翌日連絡をいただき、引き継がせていただくという体制を整えたということです。内科系の医師たちが休める時間をしっかり確保していこうという発想からの取り組みであると、考えていただければと思います。</p> <p>実際始まってみて、当院も含め、各病院から良い取り組みであると捉えられている状況です。</p>
西村委員	<p>3病院の分担は曜日で分けているのでしょうか。</p>
院長	<p>元々の体制としては、外科系の救急当番は決まっていますが、内科系の救急当番が決まっていなかったのですが、各病院外科系の当番日には内科系の医師がバックアップとして待機していたのが現状です。そこをそのまま利用しまして、外科系救急の日に内科系救急をくっつけるような格好で運営しています。</p>
事業管理者	<p>もちろん市立病院が負担する日数は応分のということで、他の2病院よ</p>

	<p>りも多くの日数をカバーしていますが、3病院で負担を分け合い、輪番制をスタートできたということでございます。</p>
西村委員	<p>輪番制は大変結構なことと思いますし、前進したというふうに思います。ただ、医師の立場からすると、そういったことが内科医や外科医の過剰な負担にならないかどうかということに危惧しているのですが、それは大丈夫という事で良いですか。</p>
院長	<p>当院にかかりつけの患者さんからの救急連絡は365日必ず当院に来るという体制から、救急隊は当番病院にまず連絡をするという体制に代わりましたので、内科医師としては、以前よりも休める可能性が非常に高くなっているという状況です。</p>
西澤委員長	<p>考え方によっては一番重点的に担う市立病院の負担がより大きくなるのではないかとと思いますが、輪番制によって、逆に負担は減っているということです。良い方向に向かっていると思います。</p> <p>医療機関連携というのは、昔は一方的に患者さんを送ることが多かったですが、最近はお互いのことを考えた連携に変わっています。今後も地域医療連携に引き続き取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>他に質疑ありますか。</p>
委員	<p>(質疑なし)</p>
西澤委員長	<p>———— 議事(2)協議事項 ① ————</p> <p>次に、協議事項の①点検・評価の進め方(案)について、説明願います。</p>
参事	<p>(資料2「点検・評価の進め方(案)」説明)</p>
西澤委員長	<p>この件について、質疑ありますか。</p>
委員	<p>(質疑なし)</p>
西澤委員長	<p>では本協議事項については、資料のとおり進めるということよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>(異議なし)</p>
西澤委員長	<p>———— 議事(3)その他 ————</p> <p>次に、その他について各委員から何かありますか。</p>

<p>高田委員</p>	<p>その他の項目で1点、意見というか要望したいと思います。</p> <p>先ほど事務局からもちょっと話があったのですが、経営強化プラン、これは令和6年から5年間の計画という事になっていまして、去年の11月の評価委員会に提案というか報告があって、その時は書面協議だったものですから、こういう平場で議論ということがなかったわけでございます。で、その資料をよく読みますと、令和5年で今の経営再建計画が終わると、なりますので、その後の5年間の計画と。表現上は「強化プラン」ということになりまして、現ロードマップの3年間、更には再建計画の3年間はコロナ旋風が吹き荒れて、当初計画とは全く想定外の事態になってしまった、結果としてですね。ですから、医療提供面も経営収支についても、正確な検証はもうできないと思うんですよ。先ほど分析結果の報告もあったんですけど。それがこの3年間だったのだろうと、思っています。ただ体制面ではね、減資もやったし、それから全部適用もやったし、そして部門収支にも取り組むということで、この市立病院の過去20年くらいを振り返ってみても、全く過去になかったぐらいこの3年間で体制は整備されつつあると、その辺は高く評価すべきであると、そのように思っております。で、その、問題は令和6年から始まる5カ年計画なんですけども、まあ謂わばこの3年間の計画の仕切り直しと。たぶんコロナも落ち着くだろうと思えますんでね。仕切り直しの再出発と。こんな風に思って、私は非常に注目しております。まさしく真価が問われる5カ年計画になるだろうと、こんな風に思っております。</p> <p>で、そのプランのスケジュールを見ますと、6月にですね、市民の意見を聞くと、いうことでまあ市民アンケート、というスケジュールになっておりました、そのアンケートするにあたってね、たぶんあの、通常はこの種のことにはある程度できて、原案ができて、その原案に対して市民の皆さん意見どうですかというの、よくあるパブリックコメントだと思うんですけども、これから始めるぞっていう時に当たって、意見を聞くということは、これ、あまり過去なかったんじゃないかな。で、たぶん苦労されているんだろうな、と、このように思っております。で、その上でですね、その市民意見をこれから聞くという中で、是非お願いしたいことが、あります。これ(経営強化プランの策定)は元々総務省の指導といいますか、指示でこの計画に取り組むというパターンではありますけれども、市立病院には我が計画と、いう風に位置づけるべきだと思っているんですけども、取り組む事項としては公立病院としての役割・機能の明確化、それから医師確保、あるいは働き方改革、経営形態の見直し、経営の効率化などなど、7つ8つの項目が載っております、もうこれらは計画に盛り込まれると、こう言うことになるわけです。で、そこで市民に意見を聞く時はですね、市立病院として、あるいは江別市として、「今後こういうふうにしたいんだ」、「こう思っているんです」ということを提示して、そして市民に物を聞くと、いう風にしないと、その市立病院についてどう思いますかなんて言ったって、わけの分からない</p>
-------------	--

質問になっちゃう。ので、市民がですね、意見を出しやすいようなアンケートにして欲しいな。ちょっと抽象的な言い方ですけども、ある程度具体的に、このようにしたいと思ってるんだと、というようなことを分かりやすく、多少それはスケジュールが遅れても。アンケートを取ることが目的じゃなくて、市民から忌憚のない意見をもらうというのが目的なんで、スケジュールが多少ずれても、その分かりやすいアンケートにして欲しいと、いうふうに思ったところであります。で、その中でも特に力点を置いてお願いしたいのは公立病院としての江別市立病院の役割・機能の明確化と、この表現自体もちょっと抽象的ですけどね、この辺についても市民に PR をし、こういう風にしたいんだと、現状はこうだけどうしたいんだと、いったようなことを取り上げて欲しいなと、思っております。で、更に、公立病院の機能を果たすためには、特に公立病院の特性からして不採算部門を担当していますし、それから新しい管理者が今力を入れてらっしゃる高度医療ですか、こちらにおいても力を入れていると。これって、言ってみれば金が足りないわけですよ。ですから、繰入金として税の投下が認められていると。こういう仕掛けになっているわけです。ですから、私がもう一点お願いしておきたいのは、江別市から繰入金というまあ名称ですけども、要は税金ですよ、多額の金を投下しているわけです。これも、ひとつ可能であればね、江別市というか、病院としての考え方を示せないものか、このように考えていますっていうようなことができれば、やって欲しいなと、こんな風に思っているんです。で、ちなみに現在進行形の経営再建計画の経営再建の基本理念としては、「自律」「連携」「柔軟」、そして「迅速」と。こういう4つのテーマかざしているわけですね。で、一番目の自律、具体的に言うと赤字を出さない、それと繰入金の依存度を低減する、こういうことを謳っているわけです。これとも連動する話になると思うんです。

で一方、ちょっと話長くなって悪いんですけども、先般の統一地方選挙でも、市長候補も(市議会)議員候補も、ほぼほぼ全員の人がね、訴えていたのは、「少子化」「高齢化」「人口減」対策ということで、まあ医療費の軽減だとか、給食費をまあ言ってみれば半減させるとか、いろいろ言っているわけですよ。主に少子化がターゲットになっているんですね。これらはやらざるを得ないと。そうすると、言ってみれば予算がかかるわけじゃないですか。この実態の中で、この2~3年、約15億円の繰入れがされているわけです。そのうち約8億円くらいは市が負担していると、こういう構造をね、このまま続けられるのか、あるいは続けていいのか、こういったこともターゲットになると思うんですよ。で、市立病院は市民のためにやっているんだから、その15億円は聖域だと、こういう議論はいつまでも続かんと思うんです、私はね。あの、ちょっと暗い話をするようですけども、今度10年先15年先、市立病院が市民のために胸を張ってね、やる。そういう病院を構築するという意味でも、その辺も、ばふらっとなしないで、ある程度これで行くんだ、といったものでね。で、市民の多くがそうだよなといってもらえ

るような病院になってもらわなきゃ困ると思うんですよ。で、このいまのコロナ禍で市立病院の評価は、ぐっと上がったと思っているんですよ。私は評価委員やらしてもらって、あり方委員会からやらしてもらってますけど、最初多くの私の仲間程度ですけども、ボロクソ言われてたんですよ。だけども、最近ガラッと変わってるんですね、市立病院の見方が。これハツタリでなくて。だからこの機運をチャンスと捉えて、ひとつガラス張りに市民の意見を聞いて、特にその金目の問題は避けて通れないと思うんですよ。やりたいことと、やれることと、違うと思うんで。その辺について、アンケート実施するに当たって、その辺を一つご留意いただければなと思って、今日の議題には載っていなかったんですけども、アンケートがまもなく始まるということですので、特にお願いしておきたいと、思ってちょっと長くなりましたけど、要望しておきたいと思います。

事業管理者

大変貴重なご意見を頂きましてありがとうございます。仰る事は本当に、我々真摯に受け止めなければならないことばかりであります。経営再建計画というのは予定通り終了されて、経営強化プランというものがこれから始まって参ります。仰るとおり、総務省の方針に基づく対応でもあるわけですので、私ども肅々と対応しますけれど、その中で市民の皆さんのご意見を伺うためのアンケートについては、十分配慮したものを作っていくべきだという風に思いますし、これが一回だけで済むことではなくて、我々の情報発信が本当に十分なのかということも含めまして、段階的に市民の皆さんにもっと理解を深めていただく努力をしながら意見を求めていくという姿勢が必要だという風に思っております。

高度医療についてですが、ご指摘いただきましたように高度先進医療というのは確かにデジタル化でお金がかかる部分があるのですが、私の考えは「高度先進地域医療」という、これは私が作った造語なのですが、先進のデジタル技術と同時に、究極のアナログ技術であります「患者さんに寄り添って話を聞いて共感して癒してあげる」という基本姿勢、昔の「赤ひげの精神」に戻るような、アナログの精神というのは絶対に忘れてはいけない、それはお金がかからない部分でもあるんですね。そこを合わせて充実させていくことが、我々江別市立病院の新たな医療の方向性になるだろうということで、職員みんなに伝えているところで、段階を追って充実させていくべきものと考えております。今の考え方というのは、近未来の時間がかかる将来像でもありますので、すぐできること、将来目指すべきことなど、タイムスパンを考えながら対応していかなければならないことと理解しております。また、市民の皆さんにもそれが伝わるように発信して、安心していただきながら進めたいと考えております。直近で実施予定のアンケート調査では、十分配慮した形で、まずはご意見を伺いやすく工夫するとともに、必要な情報を発信しながらご理解を深めていただくという過程を何度か繰り返さなければならぬと考えております。ありがとうございます。

高田委員	よろしくお願ひします。
西澤委員長	他に各委員から何かありますか。
西村委員	<p>2点コメントしておきたいと思ひます。</p> <p>1点目は、医師の立場からすると、病院が明るく且つアクティビティが高くなるためには、若い医師がいるということがとっても大事な事だと思ひますね。つまり、研修医を毎年しっかりリクルートできるかどうかというのは大事なファクターであると思ひます。毎年1人でも2人でも入ってくるということが病院のアクティビティにつながるのだから、この辺の努力をどうされているかという事と、現状、今年来年どうなっているかについてご説明いただければと思ひます。</p>
院長	<p>つい先日、全道の医学生を対象にした対面式でのリクルート活動がありまして、参加してきました。コロナで2年間中止になっていたのですが、3年ぶりに開催という事で、来場者はコロナ前よりは減っていましたが500名程度参加されていたようです。幸い当院のブースには過去最多の学生が話を聞きに訪れてくれていました。</p> <p>また早速ですが、6月に来年度の研修医募集の面接が予定されています。現在は4名の臨床研修医が在籍しておりますし、いい機運があるのではないかと考えています。</p>
西村委員	<p>その人数を聞いて私も大変嬉しく思ひます。そういう学生の経験が必ず後輩に伝わって行って、その評判というのが必ず次のリクルートにつながりますので、臨床研修医が来た際には、その方たちを大事に教育していく仕組みというものを是非、あらかじめ考えておいて欲しいと思ひます。特に市立病院においては内科など必ずしも人材が十分ではないと思われまますので、ご留意いただきたいです。初期研修は割りと内科が重点的に行われますよね。内科の医師が十分ではない中でどういう工夫をすれば、臨床研修医を満足させられるか、是非ご検討いただきたいなと思ひます。</p>
院長	ありがとうございます。
西村委員	<p>2点目ですが、前回の委員会でも申し上げたのですが、事業管理者あるいは病院長のインセンティブ経費というものを早く作っていただいたほうが良いのではないかと思ひます。事務、コメディカル、看護師、医師などすべてに対するインセンティブ経費というのがあるとですね、結構病院内が非常に生き生きとしてくると思ひます。新しい概念や工夫が出てきたりしますので、是非、早めにご検討いただいたら良いと思ひますが、いかが</p>

<p>事業管理者</p>	<p>でしょうか。</p> <p>インセンティブ経費として新たに用意したものはないのですが、使える範囲内の予算であっても、院内の意見を広く求めようという姿勢を打ち出すことで、様々な意見を集める、「ミライのタネ」を求めるといような呼びかけをしますと、たくさんの意見をみんなが出してくれるという状況にありますので、良い体制はできつつありますし、お金をそのために新たにかけるとい所がなくてもできることから始めております。もちろんそれに対して報奨金等々出せることが充実すればもっと良い方向になると思いますので、それは随時考えますが、新たなアイデアが生まれた時に、そのアイデアを運用するために使われる経費というものをなるべく全職員に行き渡るようにということで配慮してやらせていただいています。そこに、もっと自在に使える枠があれば最高だとは思いますが、そこは欲張れる状況にはないと理解しておりますので、この辛うじて黒字になっているという状況にありますので、これが持続的なものになるかどうかは高田委員のご指摘にもありましたとおりですし、市議会の皆さんの注目も、コロナ後、どのように対応するか、どのような結果がでるのかというところが一番重要になっていますので、そこを見極めながらインセンティブに配慮していけるようなことがあれば良いなという風に思っています。ありがとうございます。</p>
<p>西村委員</p>	<p>ご自身ではたぶん言いにくいだろうと思います。管理者自らやろうとは中々言い辛いと思いますので、是非そういう雰囲気を作っていただいて、今年間に合わなければ次年度からでもですね、そういう枠を作っていただいて。金額の大きさの問題ではなくて、そういうものがあるか無いかだけでも随分違いますので、新しいアイデア、新しい貢献をしたいという人に何らかの見える形で奨励してあげるとですね、やっぱり病院全体として良い方向に向かいますので是非ご検討いただきたいと思います。</p>
<p>事業管理者</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。皆さん前向きに考えてくれると思います。</p>
<p>山田委員</p>	<p>お金の話ということで、労働者の立場としてはすごくありがたいことであると思います。また、職員にとってはお金だけではなくて、自分の意見が具体化されるということはやる気につながりますし、そういった方向性が一つずつ積み重なっていくと、それだけで働き甲斐が変わってきますので良いことと思います。お金を動かすには色々と課題もあると思うので、もちろん報奨についても期待したいところではありますが、是非上の方々がそういった意識を持っていただいて、労働者の意見をつぶさない、働き甲斐がある組織にしていっていただきたい、すでにされていることとは思いますが、意識していただけたらと思い、発言させていただきました。</p>

高田委員	<p>私もね、このインセンティブ、前の委員会で西村先生が仰っていましたけども、こういうのはどうなのでしょう、分からないんですけども、事例調査というのはできないものなのでしょうか、実態調査みたいな。他の医療機関の。まあ公にできない話なのかも分かりませんが、事例調査、実態調査みたいなものはできないものですか。</p>
事業管理者	<p>公になっているものについては調査できると思いますが、なかなか限界はあるかと思います。ただこう言う形でそういう工夫を生み出していますというアイデアが見れば十分参考になると思いますので、ぜひそのような調査をしてみたいなと思います。不可能では無いと思います。</p>
西澤委員長	<p>はっきりとした実態調査というのは難しいかもしれませんね。これがそうですよと具体的にあるというよりは、いろいろな取り組みの中でインセンティブをつけているのではないかと。取り組みの調査は参考になるものがあるかもしれませんので、ご検討いただければと思います。</p>
西村委員	<p>他の自治体病院の状況は分かりませんが、前回の委員会で述べさせていただいたとおり、北海道大学病院では20年以上前から、病院長のインセンティブ経費というものがあって、それを各部門、事務も含めてですね、コメディカル、ドクターなど様々な形で病院長が配分するというような一種の報奨金ですね。その年度の末に、自分たちはこう言う風に貢献したよということを選定する委員会に提出して、病院長が一人で勝手に決めるのではなくて委員会が評価して配分を決める、という取り組みを続けています。国立の大学病院でもそういうことができているので、ご参考いただければと思います。</p>
西澤委員長 委員	<p>他に各委員から何かありますか。 (意見なし)</p>
西澤委員長	<p>この委員会もコロナの流行状況等で集合できずに書面ですとか WEB での開催を含めて進めてきました。やはりこのように一堂に集まって開催する方が良いなと改めて感じております。コロナも2類から5類に変更になりましたので、今後も対面での開催を中心に進めたいと考えております。</p> <p>コロナについてですが、その影響はいろいろあったと思います。経営面では私の病院でもそうですが、多くの補助金を受けることができたことは事実ですが、一方で他の診療を犠牲にして対応してきたことも事実であります。経営面、運営面共に、コロナが終わって通常の状態に戻すということは非常に大変であると思います。そのことはもう既に分かっているらっしゃる</p>

	<p>とは思いますが、コロナ以外の診療を充実させてそこでしっかり黒字を出すという体制をですね、作っていただく。非常に大変とは思いますが、ぜひ早急に取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>またコロナ禍において、病院職員の方々は本当にご苦労様でした。病院によっては、職員が反対してコロナ対応できなかつたところもたくさんあります。その中で市立病院が、職員が協力して対応に当たることができたことは、誇らしいことであると思います。</p> <p>しかしながら、コロナが医療機関に与えた後遺症もあると思います。良い面では、団結ができた、連携ができたということが挙げられます。一方コロナ対応は非常に大変でしたので、悪い面もあります。精神的・肉体的に参ってしまった医療従事者がかなりの数いると思われます。私の法人でもかなり精神的に参ってしまって、今そのの方々に対してのフォローに取り組んでいる最中です。一例ではありますが、それぐらい医療職はコロナ禍で影響を受けていると思っていただければと思います。細かく職員の健康状態、心身ともにですね、ぜひ留意いただいてしっかりフォローしていただきたいと思います。病院は職員あってこそその運営ですので、余裕のあるときには交替で休暇をしっかりとってもらい、心身ともに回復してまた頑張ってもらえる運営を心がけていただきたいと思います。</p> <p>これからコロナが無くなってきちんと運営していかなければなりません。総務省では公立病院の経営改善について色々な施策を打っていますので、ある意味では公立病院にとって良い風が吹いていると考えることもできます。</p> <p>それと一番大事な事は、市立病院が存続するためには、市民から支持される、愛される、そうでないとどんなことやっても経営は上手く行かないと思います。すごく大事なことだと思います。新市長さんのご挨拶の中にも「人に選ばれるまち」という言葉がありました。市民に支持される、愛される病院を目指して引き続き頑張りたいと思います。高田委員からもありましたとおり、以前は市民説明会等でも市立病院に対する批判がものすごかった時期もありましたが、市民からの評判が少しずつ変わってきているということは、我々委員会としても嬉しく思います。委員の一人としても、この委員会が市民の皆さんから喜ばれるようになればと願っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>西澤委員長 最後に、事務局から何かありますか。</p> <p>参事 次回委員会の日程につきまして、事前にお配りした日程調整表に基づき調整し、後日お知らせいたします。</p> <p>西澤委員長 他に何もなければ終了しますが、皆さんよろしいでしょうか。</p>
--	--

委員  西澤委員長	(異義なし)  —— 閉会 —— 以上をもちまして令和5年度第1回「江別市立病院経営評価委員会」を終了します。  19:20閉会
-----------------	---